

★イエス・キリストの誕生

18 イエス・キリストの誕生は次のとおりです。母マリヤはヨセフと婚約して
いました。ところが結婚する前に、聖霊によってみごもったのです。

19 婚約者のヨセフは、神の教えを堅く守る人でしたから、婚約を破棄しよう
と決心しました。しかし、人前にマリヤの恥をさらしたくなかったので、
ひそかに縁を切ることにしました。

20 ヨセフがこのことで悩んでいた時、天使が夢に現れて言いました。

「ダビデの子孫ヨセフよ。ためらわないで、マリヤと結婚しなさい。

マリヤは聖霊によってみごもったのです。

21 彼女は男の子を産みます。その子をイエス（「主は救い」の意）と名づけな
さい。この方こそ、ご自分を信じる人々を罪から救ってくださるからです。

22 このことはみな、神が預言者（神に託されたことばを語る人）を通して語
られた、次のことばが実現するためです。

23 『見よ。処女がみごもって、男の子を産む。その子はインマヌエル〔神が
私たちと共におられる〕と呼ばれる。』（イザヤ7・14）

24 目が覚めるとヨセフは、天使の命じたとおり、マリヤと結婚しました。

25 しかし、その子が生まれるまでは、マリヤに触れませんでした。

そして、生まれた子をイエスと名づけました。

マタイ伝 1：18～21



頌栄

天地（あめつち）の主なる 唯一（ゆいっ）の神

キリスト イエスに みさかえあれ

栄光（えいこう）と能力（ちから）富（とみ）と尊崇（とうとき）は

世世（よよ）に 限（かぎ）りなく 主のものなり

靈讃歌 121 番 予言によるイエスの誕生

1. おおいなるよろこびの おとづれを歌わばや

あめつちの王なる主 うまれ給えり
（おりかえし*）

ハレルヤ主イエス 神のひとりごよ

おぐらさやみ夜を てらす世の光

2. 我らはひとりの みどりごを賜いたり

おとめなるマリヤより うまれ給えり *

3. 予言のふみ読めば その名はきみよう

また平和のきみ たいのうの神 *

4. 世の罪をおいたまひ 十字架にささげにし

イエスのみ名こそは 世の望みなれ *

新年礼拝のお知らせ

2025 年 1 月 1 日

午後 1 時〔1 回目〕

午後 3 時〔2 回目〕

成人式

どうぞ都合の良い時間の方へ
お集いください。

尚、新年礼拝〔2 回目〕終了後に
成人式を行います。

リバイバル聖歌 113 番

喜びたたへよ

1. 普むべきかな

罪人なる我がため

主はみうせたり

* 喜びたたへよ 主の御名を

御栄え 永遠（ときは）に

つきせされ

3. 普むべきかな

主の力に我が病（やまい）も

癒されぬ

*

5. 普むべきかな

主は間もなく我がため

また来るべし

*

靈讃歌 3 独子を賜う

1. おお御子を賜い 世びと恵みませる

父なる御神に みさかえあれや

大いなる御救い 何にたとえん

力のかぎりに うとうのみ

2. 栄光かがやける おおみくらいに

神のこ羊 イエスはつきたもう

いざやほめ称えん 限りなき愛を

歌え声たかく ハレルヤと

3. エデンの園にて アダムエバは

罪をおかして 死に定めらる

我らもまたよみに 捨てらるべき

主の血汐により あがなわる

4. ハレルヤ我らの 主なるイエスよ

とこ世に変わらぬ いつくしみもて

みちびき給えかし かよわき我を

御許に行くまで 従がわなん

Hallelujah

★ クリスマス礼拝2024年

12月22日午後2時

祈 禱
 讃 美
 聖 書
 讃 美
 朗 読
 讃 美
 説 教
 讃 美
 オペラ
 オペラ
 頌 祝

霊讃歌 121 番「予言によるイエスの誕生」

マタイによる福音書第1章 18 節～21 節

霊讃歌 3 番「独子を賜う」

霊讃歌 6 番「クリスマス」

リバイバル聖歌 113 番「喜びたたへよ」

リバイバル聖歌「清らに星すむ今宵」

オペラ「椿姫」より 二重唱“ 乾杯 ” ヴェルディ作曲

オペラ「トトゥーランドット」より

“ 誰も寝てはならぬ ” ブッチーニ作曲

加治木イエス之御霊教会牧師 上間信一



< 奏楽 >

重久 睦
 吉倉 邦子
 川村 倫美
 長蘭 真由美
 長蘭 誠
 岩元 理恵子
 (あいうえお順)
 < 司会 >
 川村 凛々愛
 川村 白台愛
 川村 茉莉愛

霊讃歌 6 クリスマス

1. 星かげさむき ヌダヤの野辺に
 羊飼いの群 博士と語ろう
 かがやく光 闇 (やみ) を照らして
 羊の群は 怖 (お) しまどいけり
 2. 君を慕いて み空 (そら) 仰 (あお) げば
 一つの星は 光りまばゆし
 主は来ませりと み告げ受けにし
 羊飼いらは 怪 (あや) しみにけり
 3. 馬槽 (まぶね) の中に 生まれ給いし
 羔羊 (こひつじ) なる主は 救い主なり
 天 (あめ) には榮光 (みさかえ) 地には平和 (おだやか)
 人には恩恵 (みめぐみ) あれと歌いぬ
 4. 跛者 (あしなえ) は立ち 盲目 (めしい) はひらけ
 労 (つか) れし者らは 安息 (やすみ) を得たり
 滅びの子らは 贖い (あがない) うけて
 御国の世つぎの しるしたまえり

清らに星すむ今宵 中田羽俊訳詩 アドルフ・アダン作曲

1. 清らに星住む今宵 神の子 天降 (あも) り在 (ま) しぬ
 汚 (けが) れに 染める世人に 命を与えんために
 望みの明日を迎え 喜びの日を仰ぐ
 ああ 誰 (たれ) も 聞け 御使いの 歌声 空 渡るを
 キリスト 生まれ在 (ま) しぬ
 2. 信仰の光を迎 (たど) り 我らも拝し奉 (まつ) らん
 奇 (くす) しき星影踏みて 来たりし博士 (はかせ) ならねど
 馬槽 (うまぶね) に眠る御子 (みこ) は 世の悩み負う主なり
 ああ 主こそ 世の罪人 (つみびと) の友なれ いざ来たりて
 委 (ゆだ) ねよ 汝 (なが) 重荷を